

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2019.2

vol. 154

平成30年度

脳卒中看護エキスパートナース研修を開催して

去る平成30年11月26日～11月30日の5日間、当院にて第8回目となる脳卒中看護エキスパートナース研修が開催されました。今回の研修は、脳卒中看護の質の向上を図るため、専門的知識・技術・態度を習得し、より専門性の高い看護実践ができる能力を育成することを目的とし、今後エキスパートナースとして活動が期待される看護師11名が参加しました。11名中、8名は近隣の病院から参加していただいた研修生です。脳卒中の動向、病態生理・診断及び治療、運動・認知機能障害、リハビリテーション、脳卒中患者のフィジカルアセスメント、重篤化回避の支援技術、再発予防の患者家族ケア、認知症患者・家族の看護などの講義や演習、病棟での見学実習を行いました。

今年度は入退院支援の重要性が増し、急性期から回復期、維持期へと回復する過程において地域社会と連携しながら、患者・家族を切れ目なく支援するための援助について講義、事例検討を行い、認定看護師を中心に専門的な視点で講義が行われ学びを深めました。事例検討では自施設での経験や研修での学びを踏まえ、患者・家族を全人的に捉え、患者を生活者として支援するための看護ケアについて活発な意見交換ができました。最初は緊張気味だった研修生も研修が進むにつれ打ち解け合い、活発に意見交換をし、脳卒中看護という志を一つにする強い絆ができたように感じました。

今後、研修生には各職場で医療チームの中心となり活躍されることを期待します。また、この研修が更なる脳卒中看護の質の向上、脳卒中地域連携におけるネットワークの強化につながるように今後も企画、検討を重ねていきたいと考えます。研修開催にあたりご尽力いただいた院内外の講師の方々には深く感謝致します。

(文責：東5階病棟師長 竹迫 智子)



クリスマス コンサート



医療サービス向上委員会では、患者さんやご家族が少しでも笑顔になれるようにと毎年季節の行事を提供しています。平成30年12月15日に開催しましたクリスマスコンサートは、今年はさらに工夫を凝らし、一階外来ホールにステージを2つ配置して、天井や壁面にクリスマス一色に飾りつけを行いました。当日は、座席が不足するほど例年以上の患者さんやご家族が参加してくださり、中島副院長の開会のあいさつからコンサートは始まりました。

トップバッターはつくし保育園の1～3歳の園児たちによるお歌披露でした。元気でかわいらしい歌声に会場から大きな拍手を戴きました。BONDYによる生バンド演奏では、たくさんのオリジナル曲や迫力ある演奏に聞きごたえを感じ、患者さん・スタッフともに驚かされました。看護学生によるコーラスはきれいな歌声が響きわたり、参加者の中には涙する方々も見受けられました。B&Bによる金管楽器演奏は「美女と野獣」の映像が頭の中で思い描かれるような美しい音色が響きわたりました。ザ・スウィングブラザーズでは息の合ったジャズの音色や昭和の歌謡曲で会場を盛り上げていただきました。また、サンタクロースやトナカイに扮した看護師長会によるハンドベル演奏では、ジングルベルなどクリスマスソングをかわいらしく奏でてくださいました。毎年ご出演していただいている吹奏楽団「サザンウインド」は、今年の大河ドラマ「西郷どん」のテーマソングなどを演奏していただき、テレビ放映もクライマックスが迫った時期だけに、参加された方々の心にまで響きわたっているようでした。今年は昨年よりもさらに会場を盛り上げようと、患者さんやご家族がコーヒーやケーキなど飲食しながらコンサートを楽しんでいただく企画にしたところ、大好評を得ました。

暖冬とはいえ、外出もままならない患者さん方と共に楽しい時間を過ごすことができ、今年のクリスマスコンサートも無事に終えることができました。

今後も、職員一同協力し合って、医療サービス向上のため努めてまいります。

(文責：医療サービス向上委員 谷山 実穂)

第25回「愛祈祭」を終えて

第25回愛祈祭は、“まごころ～ one for all all for one ～”というテーマのもと開催されました。このテーマは、学生全員が、地域の方々や実習や学校で私たちを支えてくださっている病院職員・患者さん・家族に日ごろの感謝を込め、真心をもって健康の維持・増進に貢献したいと考え、企画しました。

当日は、地域の方々に来校していただき、体育館では、鹿児島県で罹患率の高い疾患や災害時に役立つ情報を提供する学習発表やバンドや合唱などの発表会、学内では、バザー、喫茶、健康チェックなどを行いました。様々な企画を通して、地域の方々との交流が深まり、健康の維持・増進に向けて貢献できたと思います。

愛祈祭を通して、学年を超えて学生全員で協力することの大切さを学びました。これからは、3年生は国家試験、1・2年生は実習や学習に向けて、学生全体で努力していきたいと思います。

(文責：第25回愛祈祭 実行委員長 2年：徳永 あゆみ 副実行委員長 2年：畠中 綾也加)



▲シャボンラッピングを用いたハンドマッサージ



▲3年生によるピアノとバイオリンの演奏



▲3学年合同の合唱





第72回 国立病院総合医学学会に参加して

平成30年11月9、10日に神戸国際会議場で開催された、第72回国立病院総合医学学会に参加しました。私は初めての口演発表で緊張しながら、2日目の午後に「心臓カテーテル後のTRバンド圧迫解除時のシース抜去部出血の要因分析に関する研究」について発表しました。TRバンドの減圧時の出血や統計成績に関する質問があり、他の病院でも止血に対して難渋している事がよく分かり、今、私達がICU内で取り組んでいる「圧迫止血解除のプロトコール作成」にさらなる意欲が湧いてきました。

全国からたくさんの医療従事者が参加しており、同じセッションで興味を引く発表も行われ、今後の看護に活用できると思えました。目標を同じくする看護師と触れ合う事で、私自身のモチベーションアップにも繋がりました。来年は愛知県で国立病院総合医学学会が開催される予定です。機会があればもっと多くの研究や学びを得るために参加したいと思っています。

(文責：東2階病棟 戸島 庸祐)



麻酔科

鮫島 弘子

新任紹介

2019年1月より麻酔科レジデントとして赴任いたしました鮫島弘子と申します。

東京女子医科大学を卒業後、地元である鹿児島での初期研修を経て鹿児島大学麻酔科に入局いたしました。これまでは鹿児島大学病院や県立大島病院に勤務しており、今回の異動を機に半年ぶりに奄美大島から鹿児島に帰ってまいりました。まだまだ未熟で皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、少しでも麻酔科医として戦力になれるよう日々精進したいと思っておりますので、何卒よろしくお願いたします。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

代TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 菌田・丹後田・田上・吉永・迫田・中田・椎原・吉留・櫻木・田辺・山之内・前田

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・久保・杉本・児玉

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

